

平成28年熊本地震益城町追悼式

あの忌々しい地震から一年。

4月15日に、益城町文化会館で「平成28年熊本地震益城町追悼式」が執り行われました。

荒天にもかかわらず、式には390人が訪れ、犠牲になられた37人(震災関連死を含む)の御霊に哀悼の意を表しました。

西村博則町長が、「地震は、尊い命と安らぎのある暮らし、そして美しい故郷の姿を一瞬のうちに奪い去りました。大切なご家族を亡くされたご遺族の皆さまの、深い悲しみや喪失感を想うと、哀惜の

念に堪えません。変わり果てた町の姿は、今でも脳裏に焼き付き、決して忘れることはないでしょう。

しかし、町民が心を一つに力を合わせ苦難を乗り越え、新しいまちを創造していくことが、亡くなられた方々に報いる最善の道であり、私たちに課せられた使命です。町民の皆さまの生活をいち早く取り戻し、震災前より住みよい、災害に強い益城町を創り上げることを、ここに固くお誓い申し上げます」と、哀悼の意と復興への固い誓いを述べました。

また、ご遺族を代表して河添登志子さんが、「一瞬にして、私たちが愛おしい娘を奪った熊本地震。

やり場のない怒りと深い悲しみ、その辛さと、後悔は筆舌に尽くせません。地震で、大切な伴侶、慈しみ育てた子ども、親兄弟、優しいおじいちゃんやおばあちゃん、大切な友だちを亡くされた方が多くいらっしゃいます。失ったものはあまりにも大きく、ぽっかりと空いた心の穴が埋まることはありません。悲しみは癒えませんが、私たちが、前へと歩いて生き抜く

ことこそ、娘や亡くなられた犠牲者への供養だと思えます。かつての家並みはなくなっても、また新しい町の姿が生まれようとしています。多くの悲しみと辛さを乗り越えながら、きっと益城町は、どこよりも防災に強く、人が温かく支え合う豊かな町になるはず。最後に、全国から駆けつけてくださった皆さまと自身も被災しながら支援を行ってくれた地域の皆さまに感謝します」と、時折声を震わせつつも決意と感謝の意を表し、追悼の言葉を締めくくりました。



1犠牲になられた方々を弔う祭壇。一面に花々が敷き詰められました2亡くなられた方々にご遺族に思いをはせ、追悼の言葉を述べる西村町長345多くの方々が弔問に訪れ、献花台は白い菊の花でいっぱいになりました6悲しみをこらえ、気丈に追悼の言葉を述べる河添さん